

指導資料



鹿児島県総合教育センター

道徳第27号

- 小, 中学校対象 -

平成15年9月発行

子どもの心に響く道徳教育 - 体験を生かした道徳の時間の展開 -

今日、常識では考えられない問題行動が発生するなど、心を育てる核として、道徳教育の充実が強く求められている。各学校では善悪の判断をはじめとする社会規範や生命に対する畏敬の念などの価値観を培い、心に響く道徳教育を推進しなければならない。

そこで、本稿では子どもたち一人一人が道徳的価値について自覚を深め、道徳的実践力を育成するために、体験を生かした道徳の時間の在り方について述べる。

1 体験を生かすことの重要性

道徳の時間に道徳的価値の自覚を深めさせるためには、単に資料を読ませたりテレビを視聴させたりするだけでは不十分である。子ども自身が自分の問題として受け止め、そのことを深く考え感じ取り、そして、自分にとって大切だという心に響く状態にまで深めなければならない。

子どもたちは資料の内容について体験したことがあれば、自分の問題として受け止めることができる。体験が伴うことで子どもたちは、道徳の時間にその体験を想起しながら自分とのかかわりで考えたり感じたりすることを積み上げ、道徳的価値の自覚

を深めることができる。

そして、豊かな道徳性を育成するためには、直接人と人とが触れ合うことや生き物とのかかわりを深めたり、ボランティア活動など直接的な体験を充実させることでより一層道徳的価値が高まっていくのである。

これまでの資料などを通じた学習に加え、人と人との触れ合いや自然とのかかわり、ボランティア活動など、体験活動を充実させることで、より豊かな道徳性を育成することができるのである。

2 体験を生かすために

各学校では、教育目標に基づき、道徳教育の全体計画・年間指導計画が立案されている。ここでは「体験を生かした道徳」という視点で見直したい。

(1) 道徳教育と他の教育活動との関連付け

学校教育全体において、道徳性を育成するために各学校では各教科、特別活動、総合的な学習の時間などにおける体験活動をとらえ、道徳の時間との関連を明確にする。そうすることで、かなめとしての道徳の時間と他の教育活動とが関連し、全教育活動での道徳教育が推進できる。

(2) 年間指導計画への位置付け

教育活動としての体験活動には、それぞれに目標があり、内容や他の条件を基に実施時期や方法が計画されている。道徳教育において、体験を生かすという視点から関連する体験活動などを道徳の年間指導計画に位置付けておくことが重要である。

ただし、教科、特別活動、総合的な学習の時間の体験活動には、それぞれの目標が設定してあるので、その達成が第一義であることを踏まえ、道徳性の育成に生かせる体験活動の関連を図りたい。

〔年間指導計画 小学校5年生11月の例〕

道徳の時間	
主 題 名	自然とともに生きる
内容項目	3 - (1)自然愛, 環境保全
資 料 名	わたしたちにできること
ねらい	生命の尊さに気付き, 共に生きていくために自然環境を守っていこうとする態度を養う。
関連する体験活動	
特別活動	遠足での動物園見学 動物の生態や人間とのかかわり など
総合的な学習の時間	地域を素材とした環境学習 自分たちの生活と自然や環境とのかかわり など

3 体験を生かした道徳の授業

体験を生かした道徳の授業とは、子どもたちが道徳的価値を自分とのかかわりでもとらえ、自分自身と結び付けながら考えることができる授業のことである。

教育活動における体験を、より効果的に道徳の時間に生かすために、次のような工夫が考えられる。

(1) 体験そのものの資料化

例えば、動物園で実施した遠足の写真を提示したり、総合的な学習の時間にまとめた地域の自然に関するレポートを資料として活用したりすることが考えられる。子どもたちが直接体験したことを題材にすると、子どもたちは自分のこととして感じたり考えたりすることができる。

(2) 体験が意識できる発問

子どもたちは、教育活動だけではなく日常生活でも様々な体験をしている。子どもたちが、日常生活における各自の体験を意識しながら、話し合いや思考が深められるように体験を想起できる場面を提示するなどして発問を工夫したい。

(3) 豊かな追体験の工夫

資料は体験の一つのモデルであり、資料中のできごとを自分のこととして考えられるように、次のような学習活動を工夫したい。

- ア 主人公の気持ちをより深く考えるための書く活動の設定
- イ 率直な考えを引き出すための役割演技などの活用
- ウ 自分のこととしてより実感を高めるための動作化や劇化の活用 など

4 体験を生かした授業の展開例

(1) 小学校5年生「自然とともに生きる」(自然愛, 環境保全)

ねらい 生命の尊さに気付き, 共に生きていくために自然環境を守っていくことの大切さを自覚することができる。

過程	学習内容	波線は体験を生かしたい場面 指導上の留意点
導入 5分	1 総合的な学習の時間に調べた内容を基に感じたことを話し合う。	1 <u>地域の川で調べた自然の実状を想起させ</u> , 人間が生活することと環境との関係に着目させる。
展開 30分	2 学習のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">共存ということを考えよう。</div>	2 めあてを提示し, 動植物と人間が助け合うとはどういうことかについて問題意識をもたせる。
	3 環境問題に関する新聞記事を基に自分たちの生活における問題点について考える。	3 <u>総合的な学習の時間に調べた「地域の自然」とも関連させ</u> , 自分の問題として考えさせる。
終末 10分	4 人間が生活する中での, 自然破壊につながる行為や自然を守ろうとする行為について考える。	4 人間が生きていく上で, 多くの自然破壊を伴っていることや自然の恩恵に支えられていることに気付かせる。
	5 自然と共存するために, 人間は何をしなければならぬかについて考える。	5 「心のノート」の『自然とともに生きる』を活用し, 自分の生活の中で具体的に考えさせる。
	6 教師の説話を聞く。	6 <u>動物園での飼育係の方の話を想起させ</u> , 多くの動植物に頼って人間が生活していることを実感させるとともに自然への感謝の念をもたせる。

本例は, 事前に実施した総合的な学習の時間や遠足における動物園見学の体験を活用したものである。子どもたちは, 地域の川での様子や動物園での体験と資料で取り上げている環境問題とを照らし合わせて考えることで, より現実的なものとして受け止めることができる。

道徳の時間で深めたい道徳的価値と, 他の教育活動を関連付け, 年間計画に位置付けておくことで, 事前の体験活動を取り入れた学習はより意図的, 計画的に進めるこ

とができる。

道徳性の育成を意識した体験活動を行うことは, 道徳の時間との関連を図るだけでなく, 体験活動そのものにも豊かな心を育てるといふ意義をもたせることができる。

また, 中学校で体験を生かした道徳教育を推進する場合は, 小学校の場合と基本的には同様であるが, 葛藤や心の揺れが大きくなるという発達段階や人間関係の広がりや親密化などの特性に応じた配慮も必要である。

次ページは, その実践例である。

(2) 中学校2年生「いまからのわたし」(人間の弱さの克服, 人間の気高さ, 生きる喜び)

ねらい 人間の心の中には弱さや醜さがあるが, それを克服する強さや気高さがあることに気付き, 人間としての生きる喜びを自覚することができる。

過程	学習内容	波線は体験を生かしたい場面 指導上の留意点
導入 10分	1 日々の生活の中でやる気を失ったり, 自分がいやになる場面について話し合う。 2 学習のめあてを知る。 生きる喜びを考えよう。	1 事前に実施したアンケートを基に, 人間の弱さを引き出し, 弱さも人間の自然性であることを説明する。 2 めあてを提示し, <u>ワークシートに自分の弱さや強さについて記入させる</u> 。自分の思いをできるだけ素直に書くことができるような雰囲気をつくる。
展開 30分	3 自作資料「私の悩み」を読み, 主人公の生き方を考える。 資料の概要 障害のある方々が前向きに生きている姿に感銘するとともに, それに比べ目標も持たず無気力になりがちな自分に悩んでいる。	3 <u>総合的な学習の時間での福祉施設訪問後の生徒作文を基に作成した資料</u> を教師が朗読する。 作文を書いた生徒の事前了解を得, 興味だけが先行しないようにする。 主人公のもつ悩みは, 誰もがもっていることを実感させるように問う。
終末 10分	4 グループで自分自身の好きな側面と嫌いな側面を紹介し合い, お互いにアドバイスをする。 5 級友からのアドバイスも参考にしながら, 自分の今後の生き方を考える。 6 教師の説話を聞く。	4 自分や友達の輝いている側面を見付け, 建設的な話し合いができるように説明する。 5 「心のノート」の『わたし』という生徒作文を引用し, 前向きに生きる大切さを感じ取らせる。 6 ありのままの自分を素直に受け入れ, 自分のよさを更に伸ばそうとすることの大切さを感じ取らせる。

道徳の時間は, 子どもたち一人一人が道徳的価値とのかかわりで自己を見つめ, その価値を自覚し, 主体的に道徳的実践力を身に付けていく時間である。

子どもたちが自分のこととして道徳的価値について考えるためには, 日常生活での体験や教育活動での体験活動と照らし合わせる必要がある。今後, 更に体験を生かした道徳の授業を工夫することで,

道徳性や道徳的実践力を一層はぐくみ, 一人一人の心に響く道徳教育を推進していきたい。

【参考文献】

- 文部省『小学校学習指導要領解説道徳編』平成11年5月
- 文部省『中学校学習指導要領解説道徳編』平成10年12月
- 文部科学省『心に響き, 共に未来を拓く道徳教育の展開』
- 文部科学省『「心のノート」を生かした道徳教育の展開』

(教育経営研修室)